



環境かわら版

2025年8月号(第351号)



「かがやけ☆あいちサステイナ研究所」第11期の活動がスタートしました(P2)



(戸田尚希氏撮影)

ツヤハダゴマダラカミキリの駆除にご協力ください！(P3)



「2026 愛知環境賞」へのエントリーを募集しています(P4)



モリゾー キョコロ
あいち SDGs アンバサダー ©GISPRI

愛知県は「SDGs 未来都市」として、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組を推進しています。県の環境に対する取組は、環境局 Web ページ「あいちの環境」で紹介しています。



「あいちの環境」(<https://www.pref.aichi.jp/site/kankyo/>)





「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」

第11期の活動がスタートしました



持続可能な未来のあいちの担い手となる大学生 32 名が研究員となり、パートナー企業 8 社から提示された環境課題に対して解決策を提案する「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」の活動がスタートしました。

6月22日（日）に愛知県自治センターで開催した開所式には、研究所の所長である知事、第11期の研究員、パートナー企業の皆さん、ファシリテーターの皆さんが出席しました。



開所式の様子



知事挨拶

知事からは研究員への激励の挨拶があり、パートナー企業の皆さんからも研究員の活躍に期待を寄せるコメントをいただきました。

また、研究員を代表して、南山大学の富井心愛さんから「それぞれの個性や強みを活かしながら、チームとして課題に取り組み、私たちならではの解決策を目指していきます。」と力強い抱負が述べられました。

7月から、現地調査や企業担当者とのディスカッションなど、本格的な研究活動を行い、12月には、その成果を発表する予定です。



研究員代表
富井心愛さん



開所式後のチームミーティングの様子

県は、持続可能な社会を支える「行動する人づくり」を推進しており、若者らしい斬新な視点で解決策を提案する研究所の活動を通じて、研究員が未来の「環境リーダー」に成長することを期待しています。

〔 環境政策課 企画・広報・法規グループ
電話 052-954-6210（ダイヤルイン） 〕

パートナー企業 (50音順)	環境課題
あいおいニッセイ同和損害保険(株)	事故のない社会を目指すべく、走行データを活用したエコドライブのさらなる推進策を検討せよ
(株) あいち銀行	あいち銀行だからこその地域での生物多様性保全につながる企画を検討せよ
(株) サガミホールディングス	持続可能な未来を次世代に！サガミのリソースを活用した脱炭素につながる取組を提案せよ
シヤチハタ(株)	“しるしの価値”を提供するサステナブルな製品を考案せよ
大同メタル工業(株)	持続可能な社会の実現に向け、大同メタルの強みを生かした SDGs 体験型プログラムを検討せよ
日本特殊陶業(株)	CO ₂ を利活用してつくる製品の環境価値に共感してもらえる売り方を企画せよ
マックスバリュ東海(株)	食と環境をテーマとした、お客さま参加型のプログラムを提案せよ
(株) LIXIL	知多半島の海を守る取組のさらなる活発化につながる方策を提案せよ

「あいちエコドライブキャンペーン」の参加者を募集しています



愛知県は、(一社)日本自動車連盟(JAF)愛知支部と共催で「あいちエコドライブキャンペーン」を実施しています。本キャンペーンは、エコドライブに関する動画の視聴後、アンケート内のクイズに答えることで、エコドライブの方法や効果を学び、実践につなげていただくものです。

このキャンペーンの参加者を募集しています。この機会に環境やお財布にやさしく、安全運転にもつながるエコドライブを身に付け、日々の生活に生かしてみましよう。

1 実施期間

12月31日(水)まで

2 参加の流れ

- (1) キャンペーン Web ページにアクセス
- (2) エコドライブについての動画を視聴
- (3) アンケート内のクイズに回答

(4) エコドライブを実践

3 記念品について

キャンペーンに参加いただいた方には、抽選で500名の方に、記念品(自動車の後部座席用サンシェード又は携帯に便利なペンシルタイプのタイヤ用エアゲージ)を進呈します。

4 参加方法

キャンペーン Web ページにアクセスしてください。
(<https://jaf.or.jp/common/area/2025/chubu/aichi/local-news/aichiecodrive2025>)



愛知県 JAF エコドライブ

検索

水大気環境課 大気規制グループ
電話 052-954-6215 (ダイヤルイン)

ツヤハダゴマダラカミキリの駆除にご協力ください!



近年、愛知県内で外来種ツヤハダゴマダラカミキリの発見や被害が相次いで報告されています。

1 ツヤハダゴマダラカミキリとは

ツヤハダゴマダラカミキリは、中国東部から朝鮮半島原産の外来のカミキリムシで、成虫は5~10月に見られます。幼虫はアキニレやカエデ類、ヤナギ類、トチノキなど様々な樹木の材部を食害し、枯らしてしまうため、2023年9月には外来生物法に基づく特定外来生物に指定されました。

2 現状と課題

本種は、県内では2021年に初確認されて以降、矢作川流域を中心に多くの市町村で見つかっていますが、外見が在来種のゴマダラカミキリと大変よく似ているため、他の市町村でも、侵入していながら気づかれずに見過ごされている可能性があります。また、在来種と異なり、枝先など樹木の高い部分か

ら穿孔する傾向があるため、被害に気づきにくく、掘り取りなどによる防除も行うのが困難です。

3 ツヤハダゴマダラカミキリを見つけたら

本種の成虫を見つけたら、被害拡大防止のため、殺虫剤などで駆除してください。

また、発見場所付近の木が弱っている、あるいは直径10~15mmの正円の穴が複数開いている場合、幼虫が内部にいる可能性があります。放置すると、羽化して周囲に拡散するだけでなく、落枝や倒木の危険があるため、市町村担当課、県自然環境課又は県民事務所等環境保全課にご連絡ください。

ゴマダラカミキリとの見分け方や防除方法など、詳細は Web ページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/tsuyahada202206.html>)



自然環境課 野生生物・鳥獣グループ
電話 052-954-6230 (ダイヤルイン)

「あいちプラごみ無くし隊」の隊員を募集します



愛知県では、プラスチックごみ削減の取組を推進するため、相撲芸人でごみ拾い活動家のあかつさんを隊長とする「あいちプラごみ無くし隊」を結成し、清掃活動やプラスチックの利用を減らす取組を体験し、その活動を SNS 等で発信する事業を実施します。

そこで、計 3 回実施する活動に参加していただく隊員を募集します。

1 活動時間

- ① 9月14日(日) 8:00~12:00
- ② 10月18日(土) 9:00~13:00
- ③ 10月下旬~11月下旬の1日

2 活動場所・内容(予定)

- ① 大須商店街での清掃活動
※ 隊長のあかつさんも参加
- ② 藤前干潟での清掃活動
- ③ スーパーマーケットでのプラごみ削減活動



あかつ隊長

3 対象者

県内在住の18~24歳の大学生など

4 募集人数

各回10名程度(複数回参加可能)

5 参加費

無料(交通費支給)

6 申込方法

二次元コードから申込フォームにアクセスの上、お申込みください。



※ 応募者多数の場合、抽選とします。

7 申込期限

8月27日(水)

資源循環推進課 一般廃棄物グループ
電話 052-954-6234 (ダイヤルイン)

「2026 愛知環境賞」へのエントリーを募集しています



愛知県では、循環型社会の形成を促進するため、企業、団体などが行う先駆的で効果的な環境取組の事例を「愛知環境賞」として表彰しています。

今年度も、表彰の対象となる取組を募集していますので、是非ご応募ください。

1 賞の種類

金賞、銀賞、銅賞、中日新聞社賞、名古屋市長賞、優秀賞

2 募集対象者

企業、団体又はグループ
(個人の応募は不可)

3 募集対象事例

サーキュラーエコノミーやカーボンニュートラルに関する取組など、資源循環や環境負荷低減を推進する先駆的で効果的な愛知県内の<技術・事業>及び<活動・教育>



4 募集期間

9月30日(火)まで(必着)

5 応募方法

応募用紙(Web ページから入手可)10部及びCD-R等の電子媒体1部を資源循環推進課へ直接お持ちいただくか、郵送(〒460-8501(住所記載不要))してください(メール不可)。

6 選考結果の公表

2026年1月下旬予定

詳細は次のWeb ページをご覧ください。

(<https://aichi-shigen-junkan.jp/kankyoushou/>)



愛知環境賞

検索

資源循環推進課 循環グループ
電話 052-954-6233 (ダイヤルイン)

「2024 年度公共用水域及び地下水の水質調査結果」についてお知らせします



愛知県は、水質汚濁防止法第 16 条第 1 項の規定により作成した「2024 年度公共用水域及び地下水の水質測定計画」に基づき、関係機関とともに県内の水質調査を行いました。結果の概要は、次のとおりです。

1 公共用水域の水質調査結果

(1) 健康項目

河川、湖沼、海域の 122 地点のうち、1 地点で 1,2-ジクロロエタンが環境基準を達成しなかったものの、その他の項目及びその他の地点の全ての項目で環境基準を達成しました。

(2) 生活環境項目

環境基準の達成率は下表のとおりです。達成率の長期的な推移としては、河川の生物化学的酸素要求量 (BOD)、海域の全窒素及び全りんについては改善傾向にあり、海域の化学的酸素要求量 (COD) については概ね横ばいで、湖沼の COD については未だ達成していません。

【環境基準(生活環境項目)の達成水域数及び達成率】

	調査項目	類型指定水域数 ^{*1}	環境基準達成水域数	環境基準達成率	
河川	BOD	49	48	98%	
	大腸菌数 ^{*2}	27	14	52%	
	水生生物保全環境基準	全亜鉛	42	36	86%
		ニルフェノール		42	100%
		LAS		42	100%
湖沼	COD	1	0	0%	
	水生生物保全環境基準	全亜鉛	1	100%	
		ニルフェノール	1	100%	
LAS	1	100%			
海域	COD	11	5	45%	
	全窒素	6	6	100%	
	全りん		5	83%	
	水生生物保全環境基準	全亜鉛	9	8	89%
		ニルフェノール		9	100%
LAS		9		100%	

*1 河川及び海域については調査項目により類型指定水域数が異なります。

*2 大腸菌数は環境基準点ごとに評価を行うため、類型指定水域数には類型指定された水域の環境基準点数を、環境基準達成水域数には環境基準点における達成数を記載しています。



採水作業の様子

2 地下水の水質調査結果

県内の地下水の水質の概況を把握するため 103 地点で調査 (概況調査) を行った結果、7 地点で環境基準を超過した項目がありました。そのうち、今回新たに環境基準の超過が判明した地点については、井戸所有者へ井戸水の飲用をしないよう注意喚起しました。

また、地下水汚染が判明した地域の継続的な監視 (定期モニタリング (継続監視) 調査) や地下水汚染の汚染範囲等の確認 (汚染井戸周辺地区調査) も行いました。

【調査地点数及び環境基準の超過地点数】

調査区分		調査地点数	環境基準超過地点数
概況調査	メッシュ調査	85 (85)	3 (3)
	定点調査	18 (18)	4 (4)
定期モニタリング調査		150 (236)	91 (110)
汚染井戸周辺地区調査		16 (38)	3 (3)

() 内は井戸の本数を示す。

3 今後の対応

引き続き調査を行い、環境基準の達成状況を把握するとともに、水質汚濁防止法、県民の生活環境の保全等に関する条例等に基づき、事業者に対する指導、生活排水対策等を総合的に推進し、環境基準の達成・維持に努めていきます。

詳細は Web ページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaiki/2024suishitsu-taiki.html>)



水大気環境課 調整・計画グループ
電話 052-954-6221 (ダイヤルイン)
水・土壌規制グループ
電話 052-954-6222 (ダイヤルイン)

「2024年度大気汚染調査結果」について

お知らせします



愛知県は、大気汚染防止法に基づき、名古屋市、豊橋市、岡崎市、豊田市及び一宮市とともに、大気汚染調査として、大気汚染物質(二酸化硫黄等 6 物質)及び有害大気汚染物質等の常時監視を行っています。

2024 年度の大気汚染調査結果の概要は、次のとおりです。また、詳細な結果は、以下の Web ページにて公開しています。

(<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaiki/2024suishitsu-taiki.html>)



1 大気汚染物質(二酸化硫黄等 6 物質)

二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、浮遊粒子状物質及び微小粒子状物質 (PM_{2.5}) については、前年度と同様に全ての測定局で環境基準を達成しました。光化学オキシダントは、前年度と同様に全ての測定局で環境基準を達成しませんでした。

環境基準の達成状況

項目	二酸化硫黄		二酸化窒素	
	一般局	自排局	一般局	自排局
有効測定局数	19	4	60	24
達成測定局数	19	4	60	24
環境基準達成率	100%	100%	100%	100%

項目	一酸化炭素		浮遊粒子状物質	
	一般局	自排局	一般局	自排局
有効測定局数	2	9	59	24
達成測定局数	2	9	59	24
環境基準達成率	100%	100%	100%	100%

項目	光化学オキシダント		微小粒子状物質	
	一般局	自排局	一般局	自排局
有効測定局数	62	13	42	16
達成測定局数	0	0	42	16
環境基準達成率	0%	0%	100%	100%

(注) 一般局は地域を代表する点に設置されている一般環境大気測定局のことで、自排局は幹線道路沿いに設置されている自動車排出ガス測定局のことで。

2 有害大気汚染物質等

環境基準等が定められているベンゼンなど 15 物質については、全ての測定地点で環境基準等を達成しました。

3 今後の対応

引き続き常時監視を行うことで、環境基準等の達成状況を把握するとともに、大気汚染防止法、自動車 NOx・PM 法、県民の生活環境の保全等に関する条例、愛知県 NOx・PM 総合対策推進要綱等に基づき、工場、事業場などに対する固定発生源対策や自動車環境対策等の各種大気汚染防止対策を総合的に推進し、環境基準等の達成・維持に努めていきます。



大気汚染測定局 (春日井市朝宮町)

【参考】愛知県の大気汚染常時監視情報について

県内の大気汚染測定局の最新の測定値(速報値)を公開しています。光化学スモッグ情報や微小粒子状物質(PM_{2.5})情報についても掲載していますので、ぜひご覧ください。

(<http://taiki-kankyo-aichi.jp/kanshi/realtime/index.html>)



愛知県 大気汚染調査結果

検索

水大気環境課 大気調査・補償グループ
電話 052-954-6216 (ダイヤルイン)

化学物質の環境への排出量等(2023年度分)についてお知らせします



私たちの生活は多くの化学物質によって支えられていますが、製造、使用、廃棄される過程で環境に排出され、人の健康や動植物などの生態系に悪い影響を与えてしまうものもあります。

このような化学物質の環境への排出を管理するため、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（以下「化管法」）」及び条例により、対象事業者は、法律等で定められた化学物質について、環境に排出した量等の届出が義務付けられています。

このたび、2023年度の県内の排出量等を集計しました。その概要は次のとおりです。

- 2021年の化管法施行令改正に伴い、2023年度から届出対象物質が462物質から515物質に変更されました。届出対象物質の増加により、2023年度の排出量は2022年度と比較して増加しました。

- 2023年度の排出量は、集計を開始した2001年度と比較して66.9%減少しました。



詳細はWebページをご覧ください。
<https://www.pref.aichi.jp/site/prtr/syuukeikekka.html>



環境活動推進課
 環境影響・リスク対策グループ
 電話 052-954-6212 (ダイヤルイン)

名古屋港水族館(名古屋港管理組合)と希少種の保護保全に関する協定を締結しました



愛知県は、希少野生動植物種（以下「希少種」）の保護保全について、名古屋港水族館（名古屋港管理組合）と7月11日に協定を締結しました。

○ 協定の内容

本協定では、希少種保全に関する情報や技術の共有、生息生育域内・域外保全*実施、専門的人材の育成などを連携して行うこととしています。

県がこのような協定を締結するのは、東山総合公園（名古屋市）、碧南海浜水族館（碧南市）、豊橋総合動植物公園（豊橋市）に続き4例目です。

保全に取り組む希少種の例（写真は名古屋港水族館提供）



アカウミガメ



スナメリ

- * 希少種の生息生育を脅かしている要因を除去するなど、その生息生育域内において実施する保全活動を「域内保全」、生息生育地の環境改善に時間がかかる場合などに避難措置として生息生育域外の飼育栽培施設などに希少種を保護することを「域外保全」といいます。

県と名古屋港水族館（名古屋港管理組合）は、本協定に基づき、一層連携して希少種の保護保全に取り組んでいきます。

詳細はWebページをご覧ください。
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/yasei-kyoutei.html>



自然環境課 野生生物・鳥獣グループ
 電話 052-954-6230 (ダイヤルイン)

○ 気候変動と食生活

気候変動は、農作物の収穫に影響を及ぼしており、私たちの食生活にも関係する見過ごすことのできない大きな問題です。

本号では、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）が公表した、「地球温暖化に対応したアボカドとミカンの栽培適地予測マップ」に関する研究について紹介します。

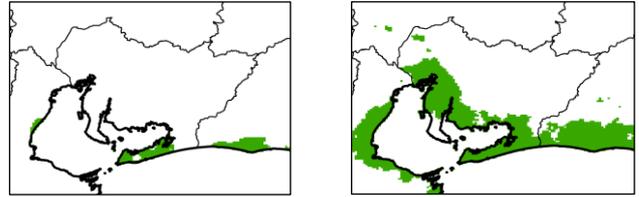
○ アボカドとミカンの栽培適地予測マップ

この研究では、温室効果ガスの排出シナリオを用いて気温のシミュレーションを行いました。その結果を使用し、地球温暖化の影響により、栽培適地の拡大が期待されるアボカドと、栽培適地の变化が懸念されるミカンについて、栽培適地予測マップを作成しました。

現在、アボカド等の亜熱帯果樹の栽培適地は、南西諸島や伊豆・小笠原諸島など島しょ部が中心ですが、温室効果ガスの排出が中程度のシナリオで推移すると、アボカドの予測マップは図1に示すとおりであり、愛知県の沿岸部が栽培適地になるとしています。

一方、同じシナリオで推移した場合のミカンの予測マップは図2に示すとおりであり、現在よりも栽培適地は内陸側の地域へ移動するとしています。ミカンは栽培適温域が狭いため、わずか1℃の気温上昇でも生産に悪影響を受ける可能性があります。実際に産地では、日焼けや浮皮などの高温障害が多く報告されています。

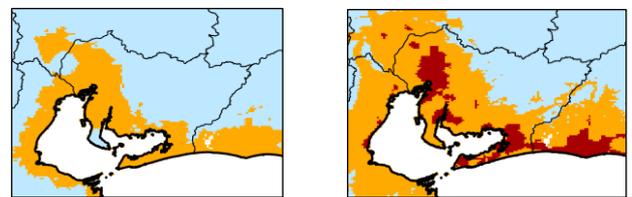
(図1) アボカド



現在（1990年-2009年） 今世紀半ば（2040年-2059年）

■ アボカドの適地
□ アボカドの適地より低温の地域

(図2) ウンシュウミカン



現在（1990年-2009年） 今世紀半ば（2040年-2059年）

■ ウンシュウミカンの適地
□ ウンシュウミカンの適地より低温の地域
■ ウンシュウミカンの適地より高温の地域

温室効果ガス排出が中程度の場合の栽培適地予測マップ

「(研究成果) 温暖化に対応したミカンとアボカドの適地予測マップ*」(農研機構)を基に愛知県が作成

* https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/167624.html

気候変動の影響を少しでも遅らせるためには、地球温暖化の原因を減らす緩和策が大切です。その一方で、地球温暖化による気候変動の影響に備える適応策も受け入れる必要があります。気候変動の影響は、私たちの身近な食物にも迫っていることが予測されています。県民の皆さん、一人一人が地球温暖化対策に取り組むことが大切です。

愛知県気候変動適応センター

(環境調査センター 企画情報部)

電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)

※掲載のイベントや講習会等は、天候の影響等により、内容を変更又は中止する場合があります。

愛知県環境情報紙「環境かわら版」(第351号)

発行日 2025年8月4日

編集・発行 愛知県環境調査センター 企画情報部

所在地 〒462-0032 名古屋市北区辻町字流7-6

電話 052-910-5486(ダイヤルイン)

URL <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/0000007029.html>

(今月号とバックナンバーを掲載しています。)



掲載記事は広報紙等へ再掲していただきますようお願いいたします。